

和歌山県の地震

第 28 卷 10 号
令和 2 年 10 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

地震メモ No. 323

南海トラフ地震関連解説情報 (令和 2 年 11 月 9 日)	・・・・・・・・ 4
津波の高さとは	・・・・・・・・ 5

- * この資料に使われている震源要素 (北緯・東経) は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000 (行政界・海岸線) を使用しています。

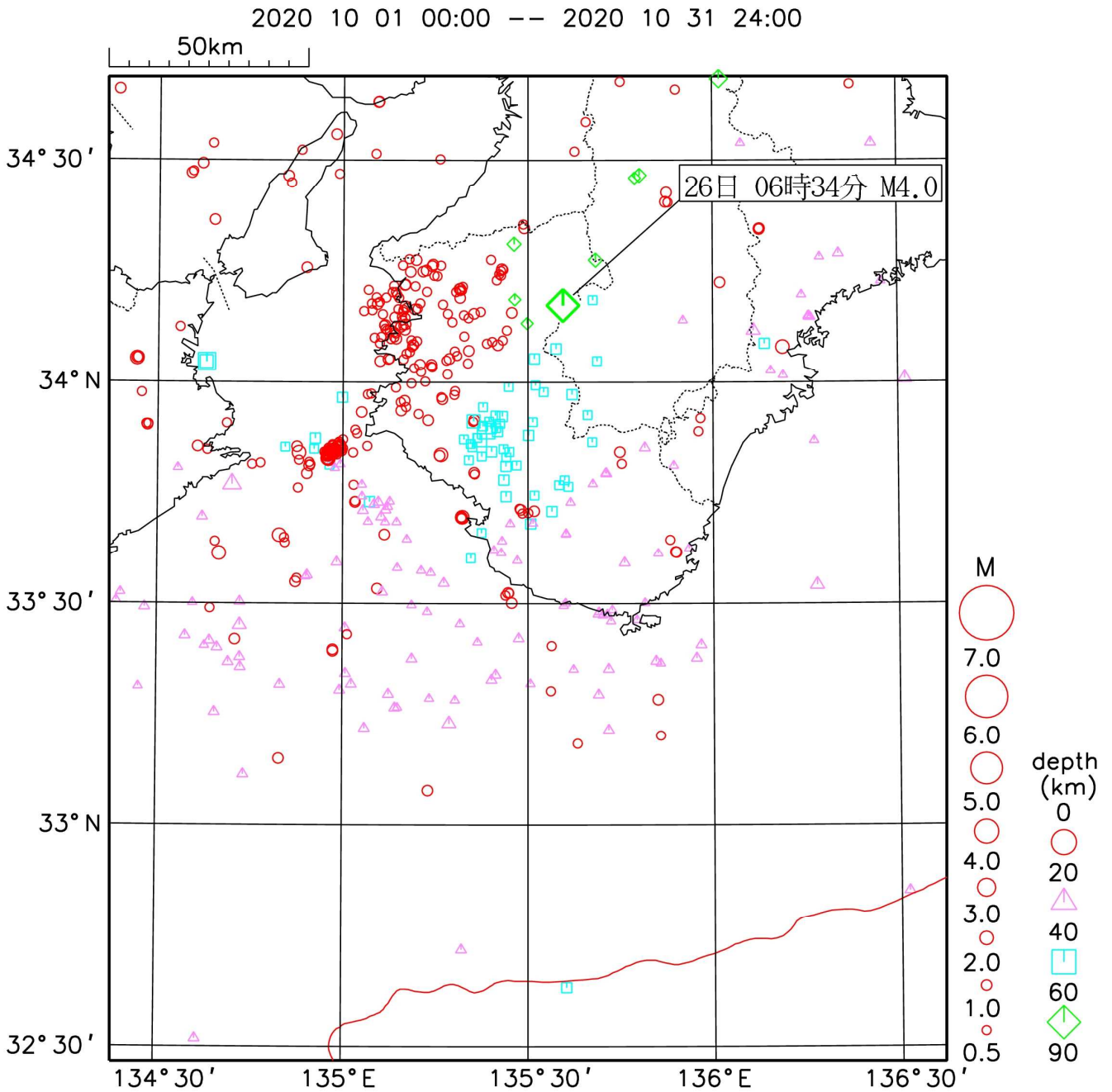
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2020年10月

和歌山地方気象台

震央分布図

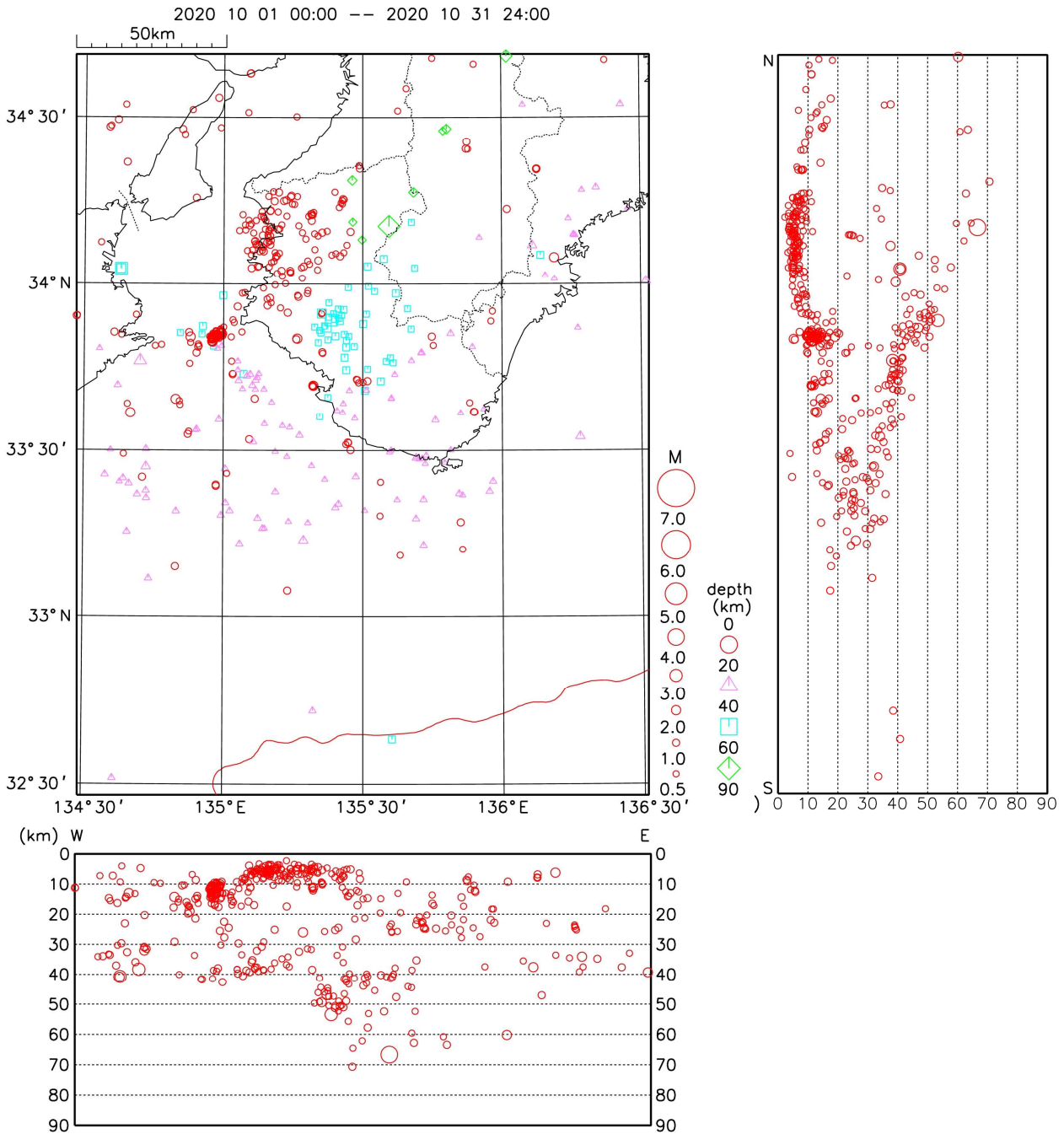


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

10月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は22回(前月は25回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、26日06時34分和歌山県北部の地震(M4.0、深さ67km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

10月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、1回(前月3回)でした。

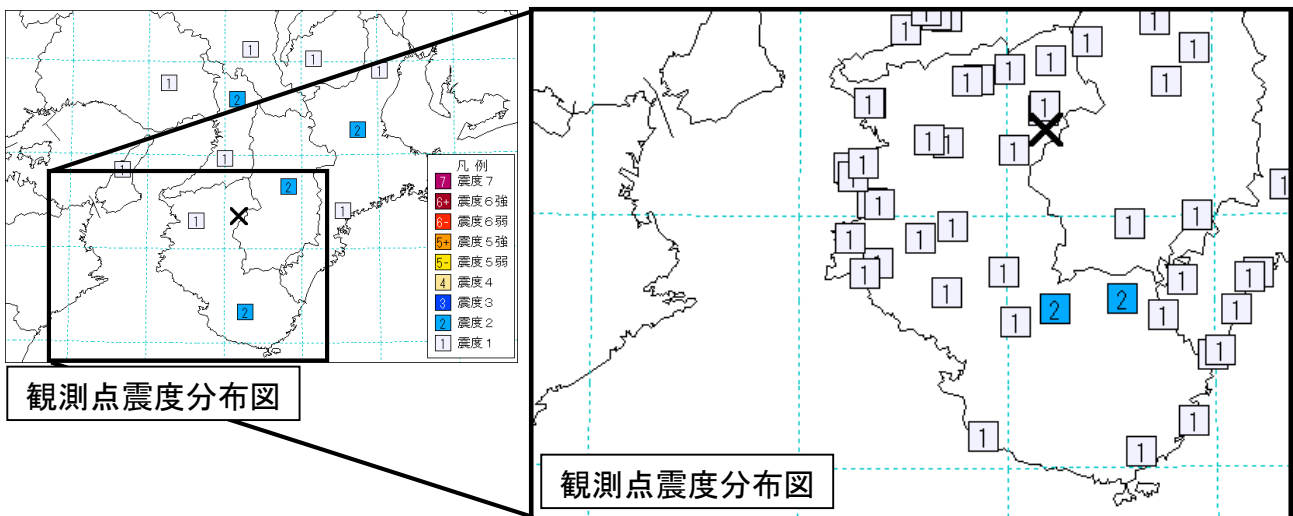
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2020年10月26日06時34分	和歌山県北部	34° 10.4' N	135° 35.6' E	67km	M4.0
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
和歌山県 震度 2：田辺市中辺路町近露, 田辺市本宮町本宮*					
震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*, 海南市下津*, 橋本市東家*, 有田市箕島 有田市初島町*, 御坊市菌, かつらぎ町丁ノ町*, かつらぎ町花園梁瀬* 高野町高野山中学校, 高野町役場*, 湯浅町青木*, 和歌山広川町広*, 由良町里* みなべ町土井, 日高川町土生*, 日高川町高津尾*, 日高川町川原河*, 紀の川市粉河 紀の川市那賀総合センター*, 紀美野町下佐々*, 紀美野町神野市場* 田辺市中辺路町栗栖川*, 田辺市龍神村西*, 新宮市新宮, 新宮市熊野川町日足* 白浜町日置*, 太地町役場*, 古座川町高池					

名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度分布図（図中の×は震央）

2020年10月26日06時34分 和歌山県北部の地震(M4.0、深さ67km)



南海トラフ地震関連解説情報 (令和2年11月9日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 紀伊半島西部：10月2日から5日
- (2) 紀伊半島北部：10月12日から20日
- (3) 四国東部：10月24日から30日
- (4) 紀伊半島北部：10月31日から継続中

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)、(4)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。また、上記(2)の期間に同地域及びその周辺のGNSSのデータでも、わずかな地殻変動を観測しています。

GNSS観測によると、2019年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2019年中頃から志摩半島で観測されている、それまでの傾向とは異なるわずかな地殻変動は、収束したとみられます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

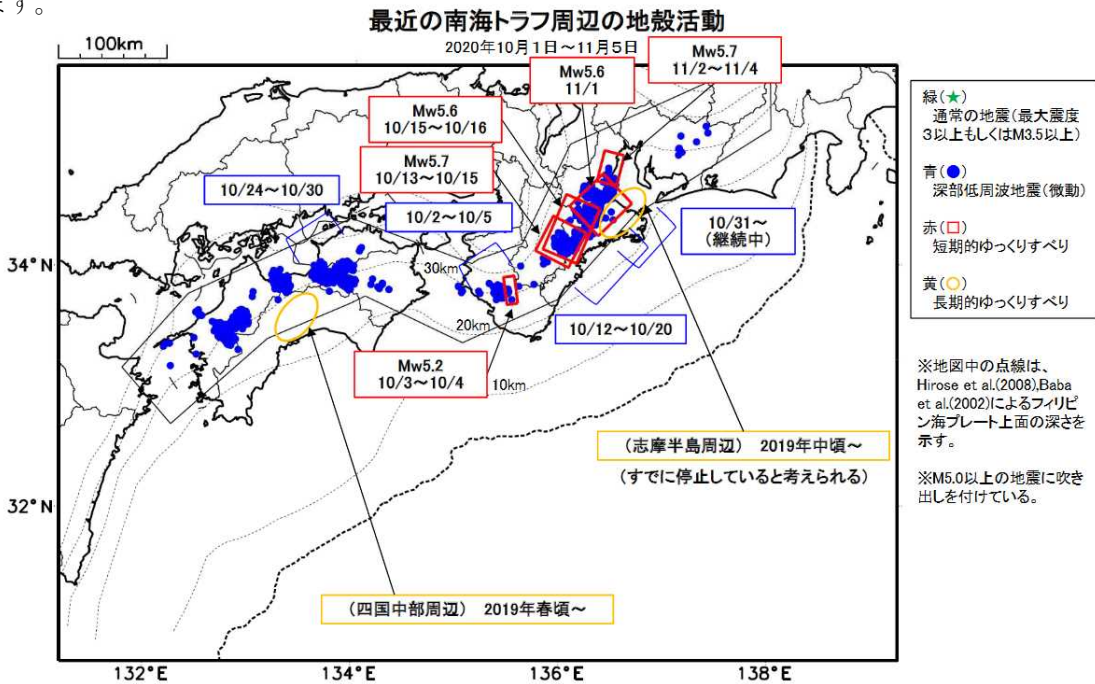


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとりとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項は以下URLの資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください

津波の高さとは

気象庁では、0.2m以上の津波が予想され、災害のおそれがある場合には、地震発生から約3分を目標に津波警報・注意報を発表し、沿岸で予想される津波の高さなども津波情報で発表します。

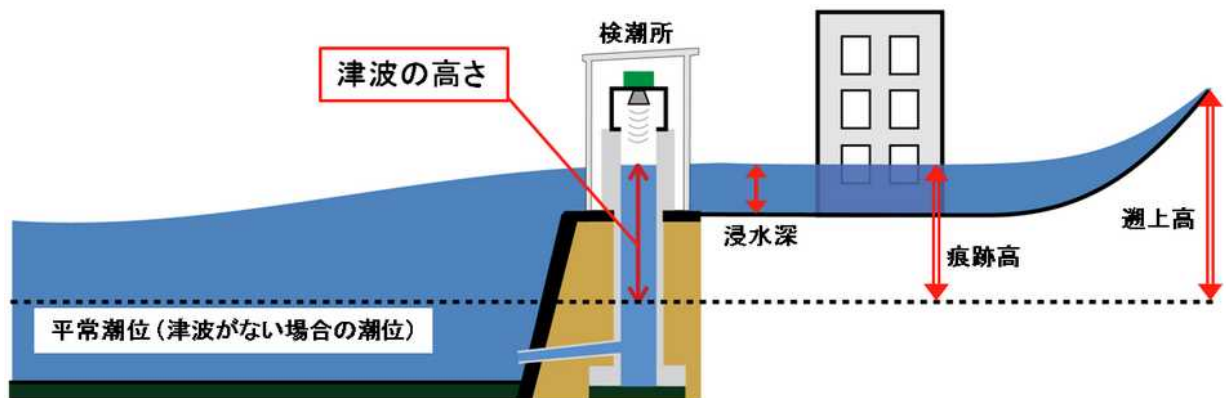
また、津波が観測された場合、高さなどを津波情報で発表します。

気象庁が発表する「津波の高さ」は、津波がない場合の海面（平常潮位）から津波によって海面が上昇した高さのことです。

◎検潮所での津波の高さと痕跡高、遡上高、浸水深の関係

沿岸の検潮所で観測する「津波の高さ」以外に、「痕跡高」、「遡上高」というものがあり、どちらも津波の痕跡などを調査して求める平常潮位（津波がない場合の潮位）からの高さです。これらは、沿岸の「津波の高さ」よりも高くなる場合があります。

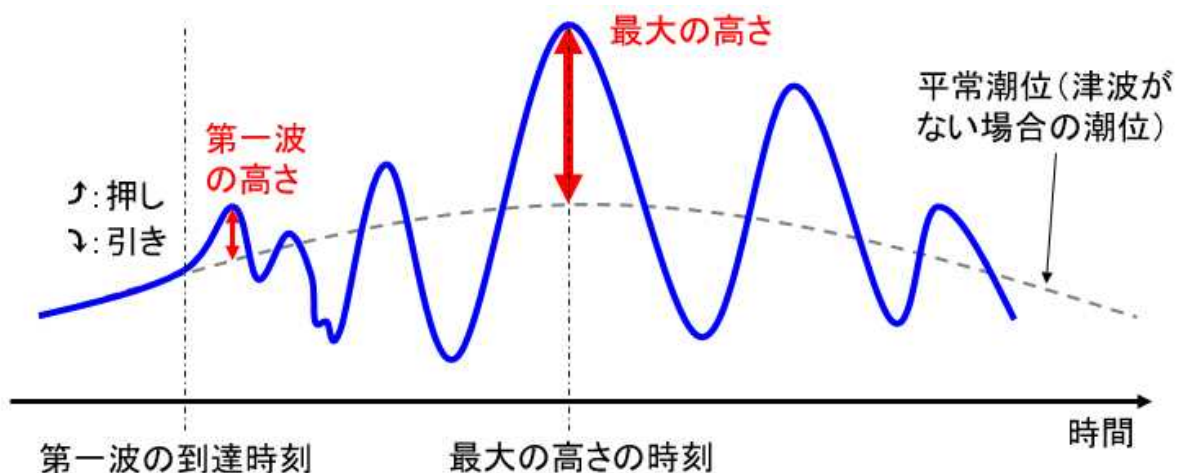
「浸水深」は、地面から津波痕跡までの高さです。



図の出典：気象庁HPより

◎津波情報の第一波や最大波について

沿岸で観測した津波は「津波観測に関する情報」、沖合で観測された津波は「沖合の津波観測に関する情報」で、第一波の到達時刻と押し引き、その時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを発表します。その時刻や高さなどの測り方は、下図のとおりです。



※津波情報の詳しい内容については、気象庁HPをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>